日本科学者会議（JSA）滋賀支部

NEWS　LETTER

2019 年 5 月 8 日発行　第 43 号

事務局長　小島　彬
TEL/FAX　077-589-3724
akrkojima@ybb.ne.jp

2018 年度滋賀教育のつどい「生きる力と学び」の分科会報告

去る２月１１日に能登川中学校で行われ、那須、田中両幹事他小高５名の計７名参加が参加、３本のレポートが出された。

小学校から「Ｎくんにとって意味ある世界を広げる教師のはたらきについて」が発表された。３年生のＮくんは自己肯定感が低く、助産師さんの話を聞いても自分は「違う、宝じゃないよ。」とつぶやく。Ｎくんにとって意味のある世界を広げていこうと担任が働きかけ、総合学習での「キラリたんけんたい　商店街編」という地域学習の中で、友人たちと協働して生き生きとした学びを体験し、商店街の方にも鋭い質問を投げかけ、学びを深めていった報告がなされた。教師としては、Ｎくんが「たくさんの困り感を持った子ども」から、子どもを見取り育てていくことの大切さを教えられた。またＮくん自身も「自ら考え学んでいく主体的な学び」を通して、「できない自分」から「やればできる自分」観に切り替わって、どの教科の内容も意味あるものとして捉えていけるようになった。

高校から「ＬＧＢＴについての実践例」が報告された。この学校では低学力の生徒が集まりややもすればできない生徒を排除していこうとする雰囲気がある中で、ＬＧＢＴ学習をきっかけに「さまざまな生徒がいるのだから排除するのでなく違いを認め合う」実践例として意味のある内容だった。生徒は真剣に授業を受け、しっかりとした感想文を書いた。今後学校現場でマイノリティへの配慮が必要となってくるだろう。教職員の間でもしっかりとした学び、認識が必要であろう。今後は自立した大人に成長していくために、ＬＧＢＴだけでなくデートＤＶなどの学びもきちんとする必要があろう。

さらに農業高校における「校外活動、制作活動を通した主体的な学習」が報告された。花緑科・造園班による製図と実際の造園作業、農産物や加工食品の地域での販売活動を通して、「そんなん終わっている」とか「ゼッタイ無理」、「知らん」ということばをよく口にする生徒が、根気強く最後までやりきって、周りと協働する大切さを学んでいく。そこには教師側の妥協を許さない綿密な指導があるが、最後までやりきった充実感から自己肯定感が育まれ、進路においても以前にはなかった地元の造園業や花屋など、学びと関連した職場へ就職する生徒が増えているとのことであった。

以上のことから、子どもたちの「生きる力」を育む教育のポイントとして２点あげてみたい。１点目はどのような子どもたちも参加し、協働していく取り組みの中で、子どもたちの学びと生きる力が深まっていくことである。２点目は地域の方々の交流の中で、学びを深め成長し、「生きる力」を育むところである。これは学力をテストの点数という偏った範囲でとらえて競争をあおり立て、できない子を排除し、企業の求める人材育成のための教育を展開しようとする新自由主義の考え方と対極をなすものである。

（田中成幸）

滋賀県立大学分会主催の講演会の報告

3 月 29 日（金）の夕方、県立大学分会は環境科学部の会議室で、「支援が必要な人々とどう向き合うか」という演題で、大学の学生就職支援課の支援コーディネーター（社会福祉士）の河合智子さんの講演学習会を行いました。

河合さんは発達障害を中心として、県立大が取り組んでいる要支援学生へのサポート体制について、実例を挙げて述べました。学内にはかなりの該当者がいることが示され、対応を模索している教職員や関心を持

つ人など、JSA 会員・非会員合わせて 14 名（内 JSA 会員は 5 名）が参加しました。

最初に河合さんの講演があり、原田幹事の司会で参加者と対話する形式で行いました。質問が多く出され関心の高さを示すと同時に、大学としての組織的・系統的な取り組みの無さが浮き彫りになり、今後各学部や大学全体での学習が必要であることを強く実感しました。

なお大学分会活動の助成金を有効に使用して、分会の支部幹事が参加者に茶華を用意され、和やかに歓談しました。最後に柳澤幹事が参加者に「日本の科学者の見本誌を見せ、入会の呼びかけを行いました。

（小島　彬）

第 10 回「ひこねピースフェスタ」の開催（お知らせ）

今年で第 10 回目となる「ひこねピースフェスタ」は、5 月 18、19 日と、2 日にわたって開催されます（18 日 14:00 から 16:00、19 日 10:30 から 16:00；場所は滋賀県立大学交流センター）。

中心的企画は、映画「コスタリカの奇跡～積極的平和国家のつくり方～」の上映、そして積極的平和主義をとるコスタリカについて詳しいジャーナリストの伊藤千尋さんが講演「憲法を活かすときーコスタリカから九条へ」を行います。それぞれに一日を充てるためにピースフェスタとしては異例の 2 日開催となりました。

憲法で軍備を持たないと定めているコスタリカの実情について知り、同じ平和憲法を持つ日本の現実を、同国国民の考え方を理解した上で、問い直してみようというものです。

日本科学者会議滋賀支部も、これまで毎年、後援していますが、河会員の従軍慰安婦問題での講演や、柳沢、水原両会員の実行委員会参加などの形で、運営に貢献しています。科学者会議として独自企画を持って参加することも検討してよいのではとも考えているところです。

フェスタなので、楽しく、多彩で豊かな内容のものにしていきたいと考えていますし、その方向での進展も見られます。まだ参加されていない会員の皆さんも、一度、ご覧になって、アイデアなどを出して頂ければ幸いです。

（水原渉:滋賀支部会員、ピースフェスタ実行委員長）

****

○5 月 18 日（土）14 時～16 時、講演
「憲法を生かすときーコスタリカから 9 条へ」
ジャーナリスト　伊藤千尋さん

○5 月 19 日（日）映画「コスタリカの軌跡」
①10 時 30 分～12 時
②14 時 30 分～16 時

○展示コーナー（18 日、19 日）

○体験コーナー（19 日）

市民公開講演学習会（ご案内）

5 月 12 日（日）15 時～16 時 55 分
コミセンやす研修室（JR 野洲南口京都方面に徒歩 3 分）
畑　明郎さん（元日本環境学会会長、支部代表幹事）
講演テーマ：「建設残土問題を考える」
概要：2000 年代に激化した建設残土問題が、最近再燃しており、演者が係わった三重県紀北町・尾鷲市と滋賀県大津市の建設残土捨場問題を事例として、全国の建設残土問題、土砂条例制定状況、法律制定の必要性などについて述べる。

滋賀支部定期大会　（お知らせ）

5 月 12 日（日）13 時～14 時 40 分、コミセンやす研修室（JR 野洲駅南口京都方面に徒歩 3 分）

ひこねピースフェスタが、講師の都合で早くから開催日を決定していたため、予定していた支部大会と重なり、例年より 1 週間早く開催することになりました。そのため支部大会議案書を「日本の科学者」に同封しても、早くて支部大会当日に配達されることになって間に合わないので、やむをえず議案書を電子メールで送付することにしました。そのため電子メールを登録されてない 10 名程の個人分会所属の会員には間に合わないことになり、大変申し訳なく存じます。以後そのようなことのないように心がけます。　事務局長